



# 帝室コレクション

ハプスブルク家ゆかりの  
二千点を超える品々



LANDESSAMMLUNGEN  
NIEDERÖSTERREICH

# 帝室コレクション

## 二千点を超えるハプスブルク家ゆかりの品々



サンクト・ペルテン市の歴史資料館

ニーダーエスタライヒ州所蔵コレクションのハイライトの一つは、2015年に加わった帝室コレクションで、ハプスブルク家が所有していた品々のコレクションとしては世界最大級です。私どもは、ハプスブルク家ゆかりの一連の品々を購入し、修復や保存処理を施して、良好な状態での作品保存に務めております。食器や衣類といった品々から、手稿、皇帝夫妻の子供たちへの贈り物など、宮廷における日常、家庭生活そして人間関係を生き生きと記録する作品の数々。そこからは、ハプスブルク家とニーダーエスタライヒ州との深い結びつきも浮かび上がってきます。現在、コレクションの一部はサンクト・ペルテン市のニーダーエスタライヒ州立博物館で常設展示されております。卓越したクオリティーと多様性を誇るニーダーエスタライヒ州所蔵・帝室コレクションの巡回展を、多くのお客様にご覧いただけることを心より願っております。

## ニーダーエスタライヒ州所蔵コレクション

### 文化遺産と自然遺産

ニーダーエスタライヒ州は、先史時代や古代ローマ時代の出土品、様々な時代の文化史や現代史、植物学や動物学関連の品々、中世から現代までの美術品など、およそ六百万点を所蔵しております。先史から現代までの遺産を次世代のために守り、そこから新たな知見を得るべく、調査研究に励んでおります。ニーダーエスタライヒ州所蔵コレクション全体の評価額は15億ユーロを超え、州が所有する最も高額な動産でもあります。私たちは展覧会や出版物を通して、この貴重なコレクションを一般に公開しております。



宮廷朝餐会・宮廷舞踏会での贈答品の数々



ハンガリーの礼服



皇帝より授与された名誉リング  
SUB AUSPICIIS IMPERATORIS



金羊毛勲章－  
帝室における最高位の勲章

白と金の食器セット

元来は皇帝フェルディナンド1世の所有



## 宮廷生活

皇帝は午前3時半にはすでに身なりを整えて任務を開始しました。早朝の打ち合わせにおいて着用した「ボンジュアル」と呼ばれるモーニングガウンでさえ、軍服に倣ったデザインとなっていました。国政を司る皇帝の毎日は責務で埋め尽くされ、宮廷生活、とりわけ皇帝の宮廷での日常は、細部まで計画された規律正しいものでした。

皇帝は、晩になっても様々な行事で忙しく、宮廷が主催する舞踏会一般、中でも舞踏会シーズン終盤に開催された「宮廷舞踏会」は、ハプスブルク帝国における社交行事の一年のハイライトでした。舞踏会に最後には必ず、ご婦人方にちょっとしたプレゼントが贈りましたが、特に人気だったのが「宮廷舞踏会ボンボン」と呼ばれる、帝室御用達の菓子店デメルのボンボンの詰め合わせで、帝室メンバーの似顔絵で飾られていました。



皇帝のモーニングガウン  
「ボンジュアル」



肘掛け椅子  
コルフ島のアヒレオン宮殿より

## 皇帝夫妻の暮らし

若き皇帝夫妻は1853年8月19日に婚約を発表、翌年4月24日に婚礼の儀が執り行われました。シシイの愛称で親しまれた皇妃エリザベートは、自然豊かな環境でのびのびと育ち、礼儀作法を重んじる、格式ばったハプスブルク宮廷に息苦しさを感じていました。この息苦しさを逃れるために、1860年に最初の長期旅行に出たシシイは、二年にわたる旅をマデイラ島、そしてギリシアのコルフ島で過ごしました。コルフ島がとても気に入ったエリザベートは、1889年から1891年にかけてポンペイ様式のギリシア宮殿を建造させ、アヒリオン宮殿と名付けました。アヒリオン宮殿のために作られた調度品には全てイルカのお印が付けられました。帝室コレクションの中でも、皇妃所有だった肘掛け椅子は特に重要な作品です。イルカはシシイのお気に入りの絵柄で、皇妃私有の多くの品々を飾っています。有名な白と金の食器セットは、元来は皇帝フェルディナンド1世の所有でしたが、後に皇帝フランツ・ヨーゼフが皇妃のために金のイルカのお印を加えたものです。



絶世の美女と謳われたシシィは、美容にも余念がありませんでした。日よけのため、また顔を隠すために、シシィが常に持ち歩いていたのが扇です。末娘マリー・ヴァレリーがレース生地の制作にも自ら関わって、シシィの誕生日に贈ったクリーム色の扇もそのひとつです。

皇帝夫妻の共通の趣味は乗馬でした。乗馬を愛してやまなかったシシィは、ピアッフエ、パッサージュ、レヴァーデといった馬術の訓練に多くの時間を費やし、この時代の最も優れた女性騎手の一人と言われるまでになりました。シシィは、イギリスやアイルランドで、馬に乗って獲物を追う危険な狩猟にも皇帝と一緒に参加しています。それは女性としては非常に珍しいことでした。皇妃の狩猟用帽子は、そんな皇妃のプライベートな姿を紹介する貴重な作品です。



ルドルフ皇太子の  
記念メダル

## 皇帝の家族

シシィとフランツ・ヨーゼフの間には4人の子供が誕生しました。唯一の男の子だったルドルフ皇太子は、皇位継承者として帝国内で重要な役割を担うはずでしたが、皇太子の興味はもっぱら学問にあり、母であるシシィの意向に沿ってリベラルな教育を受けたため、父である皇帝フランツ・ヨーゼフとは葛藤が絶えませんでした。ルドルフが権威主義的な父親の期待に沿おうと努力する一方で、父フランツ・ヨーゼフは息子を一切の政治参加から締め出しました。危険な狩猟や数多の女性関係など、羽目を外すことも多かったルドルフが、自らのリベラルな政治見解を匿名で寄稿したことで、父の態度はさらに硬化していきました。皇太子の人生にはやがて諦念と無関心とが色濃くなり、1889年1月30日、マイヤリングの狩猟館での悲劇的な自死という形で、自らの人生に幕を引きました。

その後、ジュネーブでの皇妃暗殺という更なる悲劇に見舞われた皇帝の人生は、今日にいたるまで研究対象となっており、また神話として語られ続けています。皇帝夫妻の華やかさに加えて、この悲劇的な運命がハプスブルク家の歴史への人々の関心を引いてやまないのです。



皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と高級副官

ルドルフ・スヴォボダ画



皇妃エリザベットの扇



皇妃エリザベットの乗馬用帽子



皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の乗馬用鞭



ルドルフ皇太子の子供時代の文房具セット  
7歳の時に贈られたもの

## 帝室コレクション

ニーダーエスタライヒ州所蔵の二千点を超える帝室コレクションは、ハプスブルク家の所有に由来しており、帝室メンバーの暮らしを今日に伝えるものです。また同時に、19世紀後半という歴史上重要な意味を持つ時代の記録でもあり、世界的に類のないコレクションです。

## お問い合わせ

Armin Laussegger (M.A.)  
ニーダーエスタライヒ州所蔵コレクション館長  
post.k1@noel.gv.at

ニーダーエスタライヒ州政府管轄局  
芸術文化担当部門  
所在地 Landhausplatz 1, 3109 St. Pölten Austria

[www.landessammlungen-noe.at](http://www.landessammlungen-noe.at)



帝室コレクションと巡回展についての詳細はこちらから。



### コンセプトおよび概要

ニーダーエスタライヒ州政府管轄局 芸術文化部門  
グラフィックデザイン

Neuhait – Büro für Gestaltung

翻訳

久保クネシュ幸子

印刷

ニーダーエスタライヒ州政府管轄局 施設管理部門 印刷所

表紙画像

即位後間もない若き皇帝の肖像

若き皇妃 フランツ・クサヴァ・ヴィンターハルター工房作

著作権

ハンガリーの軍服 © Hermann Historica

白と金の食器セット 元来は皇帝フェルディナンド1世所有 © Dorotheum

その他の画像は全て © ニーダーエスタライヒ州所蔵コレクション

KULTURLAND  
NIEDERÖSTERREICH

